

栃木市市民会議 総合計画部会会議要旨

日 時：平成27年5月13日（水） 午後8時20分～9時20分
会 場：栃木市役所 正庁
出席者数：委員28名、事務局8名

- 1 開会
- 2 あいさつ

3 議事

1) 平成27年総合計画部会の開催について・・・資料1

事務局：グループ1から7グループにおいては、本年も外部評価を担当していただく。

昨年からの変更点として、昨年は全事務事業評価表を資料として用意していたが、総合計画に定める主要事業、政策的事業、上位施策の評価に必要となる事業について各ワーキンググループで評価を実施し、皆様に資料として提示する。また、昨年は外部評価の日程を二日間で実施していたが、今年度は職員からの事業説明を1日増やし、3日間で実施する。

グループ8の皆様には、行政改革大綱・財政自立計画へのご意見をいただく。昨年は一日で終了していたが、今年度については総務課職員による概要説明・意見聴取を含め、二日間での実施を考えている。

グループ分けについては、継続して事業等の進捗を見ることにより、一層評価の制度を高めることができることから、昨年決定したグループ分けから変更せず、今年度においても継続するのでご理解いただきたい。

・実施スケジュールについては、グループ1～7については、7月中旬職員による内部評価が完了した資料を委員に送付し、下旬より3日間で外部評価を実施していただく。日程については後日改めて通知する。

・日程としては、昨年度同様、初日に各グループ内での役割分担等を実施し、その後職員による概要の説明等を実施、2日目以降で各委員の皆様から評価・意見をいただく。その後9月の全体会議で最終報告として提出頂いた後、庁内の会議を経て外部への公表を予定している。

・グループ8が担当する、行政改革大綱・財政自立計画については、6月中旬頃に事務局より日程と作業マニュアル等を送付する予定である。7月上旬頃に新しい行政改革大綱実施計画がまとまる予定であるので、7月下旬ごろまでに各委員に資料を配布し、8月上旬より意見を伺う予定である。

・作業日程としては、1日目、総務課職員より概要の説明、実施シートをもちいて所管課職員による説明を行いたいと考えている。2日目では委員からの意見聴取を行い、合計2日間での実施を考えている。

委員：施策評価において、上位施策評価に必要となる事業というのは何を指すのか。

グループ8、行政改革大綱財政自立計画実施計画の意見聴取にあたり20シート程度をピックアップとあるが、この数の根拠は何か。

なぜ、グループ1から7は3日間での実施なのにグループ8では2日間の開催なのか。グループ1から7では82の項目を7グループに分けて実施するのに対し、グループ8は、4つの柱、手段が10件、取り組み事項が85ある。そういう数値からいっても妥当とは思えない。昨年実際担当し、質問事項が10ページにも及んだ。なぜこのようになったのか。

全体の話になるが、基本計画書の中では組織横断のプロジェクト、あるいは地域重点施策があるが、この部分については全く市民会議では取り上げないのか。

委員としてみると、各団体からは部会参加者がいるが、岩舟地域からの公募の参加者がいない。せっかく新しく総合計画を改定し、岩舟地域も加わったのだからそのあたりはどのように方向性を考えているのか。

事務局：上位施策評価に必要となる事業については、各単位施策・基本施策の評価に必要となる事務事業と考えている。各単位施策に事業が紐づいているが、主要事業、政策的事業、あるいはそれらに含まれないが、各施策の指標の達成に必要と思われる事業については含める方向で考えている。

事務局：グループ8の20シート程度をピックアップして実施するという予定についてであるが、昨年度は85のシート全てについて事前説明なく意見聴取という形での実施であった。その反省を含め、今回は焦点を絞ってご意見を伺う方がわかりやすく、意見もいただきやすいのではということで、20シート程度と考えた。20シートの根拠としては、行政改革大綱の主な取り組み事項というものがあるが、37の事項を主な取り組み事項として定めており、柱の1と柱の2で20項目、3と4で17項目となっていて、平成27年度については、柱の1と柱の2の20項目を重点的に焦点を絞って、また職員よりこの20項目について説明を実施したうえでご意見をいただけるように考えた。

また、グループ1～7が3日間での実施に対し、グループ8が2日間での実施となる点については、昨年度は1日での実施であったため、20シートでの実施ということで焦点を絞らせて頂いたうえで、内容の説明について1日を設定した。

事務局：地域計画、横断的計画については、現在総合計画で定められている7つの基本方針の中に全ての事業が含まれており、今回の評価では7つの基本方針ごとに評価を重ねていき、その中で各事業についてはフォローしていくことを考えている。

委員：組織横断の3つのプロジェクト、いのち・ちから・たから、それから地域重

点事項についてはどうかということを聞いている。

事務局：これらについては、各事業を積み重ねて行き、基本構想の中に含まれるものとなるので、10年後次期総合計画を策定する際に見直すものとなっている。そのために、今各事業、各施策の評価を重ねて行っているところである。

委員：この計画書ではもう少し違うことが書いているように見えるが。今の説明では10年後にならないと評価できないと聞こえるが、どう評価するのかを示さずに、単に10年後になるからというのではいかなものか。

副部長：そのプロジェクトは色々な単位事業が固まってプロジェクトになるもので、プロジェクトが単位事業なわけではない。

委員：そういうプロジェクトがうまく進行しているかどうかというのが評価されていない。各重点施策の中に横串で、これはいのち、これはちからだということが定められている。それが、いのちとして成果が上がっているのか、そういった判断が必要だから計画の中に謳っているのではないのか。

事務局：この3つのプロジェクトがどこに位置づけされているかというと、基本構想の欄に位置づけられている。ご質問の意図としては評価はしないのか、やるのであればどういった評価をするのかということかと思うが、基本構想に関する項目については、外部に公表するのは10年に1回、次の基本構想を作る際にアンケート等も実施し、評価を行う。なので、市民の皆様の目に触れるのは10年目になるが、この3つのプロジェクトについては、この横串にしたところにいくつか事業名が入っていると思うが、事務事業評価の中で、毎年この事業は何%達成しているというのはでており、その進捗率を足しこんでいって、一年目の進捗状況はどうだったというのを皆様にお出しすればよかったが、今回それは漏れていたもので、今年度から、外部に提示するものではないが、部会の皆様には提示できるようにしていきたい。今後検討させていただき、何らかの形でご報告するようにしたい。

皆様にやっていただいている外部評価、正確には内部評価に対する意見というのが正しいかと思うが、この3つのプロジェクトについても同じやり方で、我々が進捗状況をお示しするので、それについて何かご意見があれば頂戴するというかたちでやっていくというような形で検討していく。

委員：グループ8の実施期間、それから20シートを選択というのは、枠を作ってその中にはめようとしているようにしか考えられない。

先ほどのグループ1～7では、主要事業や政策的事業など、施策の評価に必要なことからそれに絞ってということであったが、グループ8では単に20シート

ということで、これでは単に期間に収めたいというようにしか見えない。

副部長：委員の意見を参考に事務局にはご検討いただきたい。